

# きらり



## ☆第1回人権・同和教育ホームルーム活動



1年 より良い人間関係を作ろう

### P T A 人権教育部の活動計画

竹林整備	年3回
西条市人権・同和教育講座(～12月)	5月
市内五高校人権・同和教育連絡協議会	6月
いじめ問題対策委員会	7月
体育大会販売	9月
きらり48号の発行	9月
小松高祭販売	10月
ウォークラリー大会補助	11月
人権・同和教育ホームルーム活動公開授業	11月
きらり49号の発行	2月



2年 差別はどのようにして作られたのか



3年 確かな進路保障のために

### ○「悪いのは感染者じゃない、ハンセン病元患者・家族からのメッセージ(四国羅針盤)」を鑑賞して

今年の1月、全国のハンセン病回復者やその御家族によるメッセージ展が東京でありました。なぜこの時期の開催?それは今のコロナ禍で、過去に自分たちが受けた言われなき差別・誹謗中傷を繰り返すことのないようにという思いからでした。

ハンセン病は、日本でも1947年から治療が始まり、「治る病気」になりました。それでも、1996年に予防法が廃止されるまで、恐ろしい伝染病という誤った考えが広まったために、未だに本名を名乗れない、また回復した家族のことも口に出せない人もいます。その当時、どれほどの苦しみを心身ともに受けたのか。

差別をしない、いじめはダメ、誹謗中傷は許さない。多くの人は「そうよね、当たり前のことだよ。」と思うのですが、苦しんでいる人がいるのが現実です。このメッセージ展の思いをくみ取り、過去は変えられなくても、今これから同じ過ちを繰り返してはならないと強く思いました。



○「日本一静かで、笑顔あふれるカフェ」(目撃! にっぼん) を鑑賞して

大塚えりさんは聴覚に障がいがあり、以前は聾学校で紹介された就職先で事務をして働いていました。えりさんには、耳が不自由でもいつかは接客業をしたいという夢がありました。大手コーヒーチェーン店で、聴覚障がい者でも接客ができることを知り、アルバイトで働き始めました。2年後には社員試験にも合格し、そのやる気が幹部の人の目に留まり、認められるようになりました。聞こえないという障がいがあるから、接客の仕事は無理。そんなイメージを壊していきたいという強い思いが、夢の実現へとつながりました。実際に耳の不自由な人が接客ができるのか、不安や難しさもあったと思います。仲間同士



で助け合い、声で伝わらないことも、手話や明るい表情で、前向きに取り組む姿がとても素敵でした。このお店に通うお客さまは、スタッフの明るさと心遣いに元気をもらっていると言っていました。身体に障がいがあるからこれは無理だと決めつけるのではなく、やってみたいという思いをサポートしたり、楽しく明るく働ける社会であってほしいと思いました。

☆人権・同和教育講演会



池内大輔先生に講演してもらいました。

講演会の感想

- 老夫婦が言ってくれた、「あなたのやっていることは正しいから頑張りなさい。」という言葉があつて、池内さんも頑張ることができたのではないかと思います。
- 死にたいと思っている人に、生きたい、生きてて良かったと思えるようにという言葉が心に残りました。池内さんみたいに、かっこよく、強く優しく生きていきたいです。



☆人権紙芝居 (清風会道前育成園)



恵子さんの思いに触れました。

人権紙芝居の感想

- 「当たり前のことを当たり前」に、障がいがあるかないかなどに関係なく、誰もが同じ権利をもって生活できるようにしていきたいと思いました。
- 私には発達障がいの弟がいます。なかなか周りから認められないこともあります。同じ部の後輩が弟の良い所をたくさん見つけて、良く報告してくれていました。私も周りの良いところを見つけ、どんな人とも楽しく関わっていきたいです。

☆いじめ問題対策委員会



学校生活アンケートについて確認しました。

☆現地研修会 (氷見交友会館)



林田哲雄さんについて学びました。